

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N 値 ~ 深度) 試験 図		原位置試験 (孔内水圧 載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)						
														(N 値)	(値)																
166			+	花崗斑岩	にぶい種	Hg				165.32m : 70° の割れ目は165.32mで径3mmの橙色のカリ長石を横断する。また、交差する割れ目の一部も止まっている。割れ目は粗粒部が認められる。割れ目周辺の岩体には原岩組織が見られる。系統的な割れ目も存在しない。	CH'																				
			+	花崗斑岩	灰褐					165.80~166.10m : 径10~20mmの石英が多く晶出する。一部は楕形の結晶型を示すため熱水変質で燻硝石と共に晶出した2次石英である。																					
			+	花崗斑岩	褐灰	Hg				166.44~166.47m : 径10mmの斑状~長さ20~30mm・幅5mmのレンズ状で石英が晶出する。																					
			+	花崗斑岩	暗緑灰	Hg				166.65~167.21m : CH 一部で高角度割れ目がやや多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟入物は分布しない。																					
167			+	花崗斑岩	暗緑灰	Bg	bg	β	2	167.00m以深は燻硝石化が進み、暗緑灰色を呈する。																					
			+	花崗斑岩	暗緑灰	Hg				167.21~168.22m : CH 白色筋状のゆる割れ目が交差し岩片状に砕けているが、岩片は堅硬で、挟入物は分布しない。																					
			+	花崗斑岩	灰褐					168.22~169.66m : CH 堅硬、塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コアが主体。白色筋状のゆる割れ目も含むが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。全体に燻硝石化し、径2~3mmの暗緑灰色の斑点状に晶出して存在する。割れ目やゆる割れ目沿いに分布するものは少ない。燻硝石化が強い部分は暗緑灰色を呈する。割れ目に粘土、砂などの挟入物は分布しないが、一部で燻硝石化や黄鉄鉱の晶出が認められる。																					
168			+	花崗斑岩	暗緑灰	Hg				169.19~169.41m : 燻硝石化が進み、暗緑灰色化する。軟質化は伴わず堅硬である。																					
169			+	花崗斑岩	灰褐					169.66~172.69m : CH 堅硬、塊状で割れ目が少ない。一部に白色筋状のゆる割れ目が分布するが、密着度がよく、分離しない。 169.67~170.22m : 径2~3mmの暗緑灰色の燻硝石が斑点状に多く晶出する。																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (m) R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水圧 含む)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)		
													(N 値)	(値)													
					灰褐				170.20~170.65m: 60~70° のゆる割れ目が数本分布するが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。																		
					褐灰				171.00~171.03m: 径10mmの大型の橙色のかり長石が点在する。																		
					灰褐		II g		171.29m: 35° と 87° の割れ目が交差するが、交差部周辺は片状化しない。																		
					花崗斑岩		Bg	bg β 2	171.85m: 34° と 74° の割れ目が交差するが、交差部周辺は片状化しない。																		
					にんじろ褐		III g		172.32~172.53m: 径2~3mmの暗緑灰色の輝石が径0.5~1mmの石英細脈を伴って、斑点状に晶出、点在する。																		
					褐灰		II g		172.69~174.13m: CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コアを含むが、10~20cmの柱状コアが主体。一部で輝石化し、割れ目やゆる割れ目によって細脈状~径1~3mmの斑点状に晶出する。割れ目面に砂や粘土は挟まない。細脈部に石英を伴うこともある。																		
									173.66~173.73m: 密着度の低い潜在割れ目が10~20mm間隔で分布し、ハンマーの強打で分離・細片化するが、粘土や砂など挟在物は分布しない。																		
									173.93m: 43° の割れ目は径5mmの橙色のかり長石を横断する。また、43° の割れ目と交差する2条の高角度のゆる割れ目が見られる。割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩部には顕著な細脈が見られ、系統的な割れ目も存在しない。																		
									174.13~175.55m: CH 堅硬、塊状で一部の割れ目交差部でコア長約10cmに片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コアが主体。一部に白色筋状のゆる割れ目を含むが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。上位層に比べ輝石化は弱くなる。																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)						
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																	
				花崗斑岩	褐灰	Bg	II g	β			175.15~175.2m: 70°程度の割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ面に挟存物は分布しない。																						
176																																175.45~175.7mは片状化するが、コアチューブ引上げ時の擾乱による可能性が高い。岩片は堅硬で挟存物は分布しない。面の一部は赤褐色化し、断片的に縞縞も認められる。赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。	
																																175.55~176.50m: CH 堅硬。上下位に比べ割れ目がやや多いが、コア長10~20cm (III) が主体。粘着割れ目も含むが、大半は密着度が高く、ハンマーの打撃で分離しない。	
177																																176.50~176.70m: CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。 176.59~176.62m: 30°の割れ目沿いに風化 (γ) し、軟質化 (D) する。砂状~粘土状部は挟まない。 176.78~179.15m: CH 堅硬。塊状でコア長20cm以上の棒状コアが主体。一部に含まれる粘着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。上位に比べ緑泥石化が進み、径2~5mmの暗緑灰色の斑状~縞状の細粒部が分布する。細粒部は大半が周囲とよく密着し、開口化しない。	
178																																177.65m: 35°で幅2~3mmの石英脈が分布する。周囲と同化する。 177.83~178.27m: 径5~10mmの大型な橙色のかり長石が晶出し、点在する。	
179						178.31~178.39m: 上端75°, 下端70°の割れ目に囲まれ幅25mmで径5~10mmに細片化する。幅25mmでごく薄く砂状化する部分がある。上端面に緑泥石がフィルム状に付着する。 178.45mは粘着割れ目が多いが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。																											
						179.15~180.00m: CM																											
		120.22	180.00				III g				179.37~179.60m間の一部は15~57°の割れ目が交差し片状化するが、岩片は堅硬で。面は赤褐色化・未変質で挟存物も分布しない。一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する。粘着割れ目の多くは開口割れ目化する。																						

孔番 : H27-B-3

深度 0.00m ~18.00m



孔番 : H27-B-3

深度 18.00m ~ 36.00m



孔番 : H27-B-3

深度 36.00m ~ 54.00m



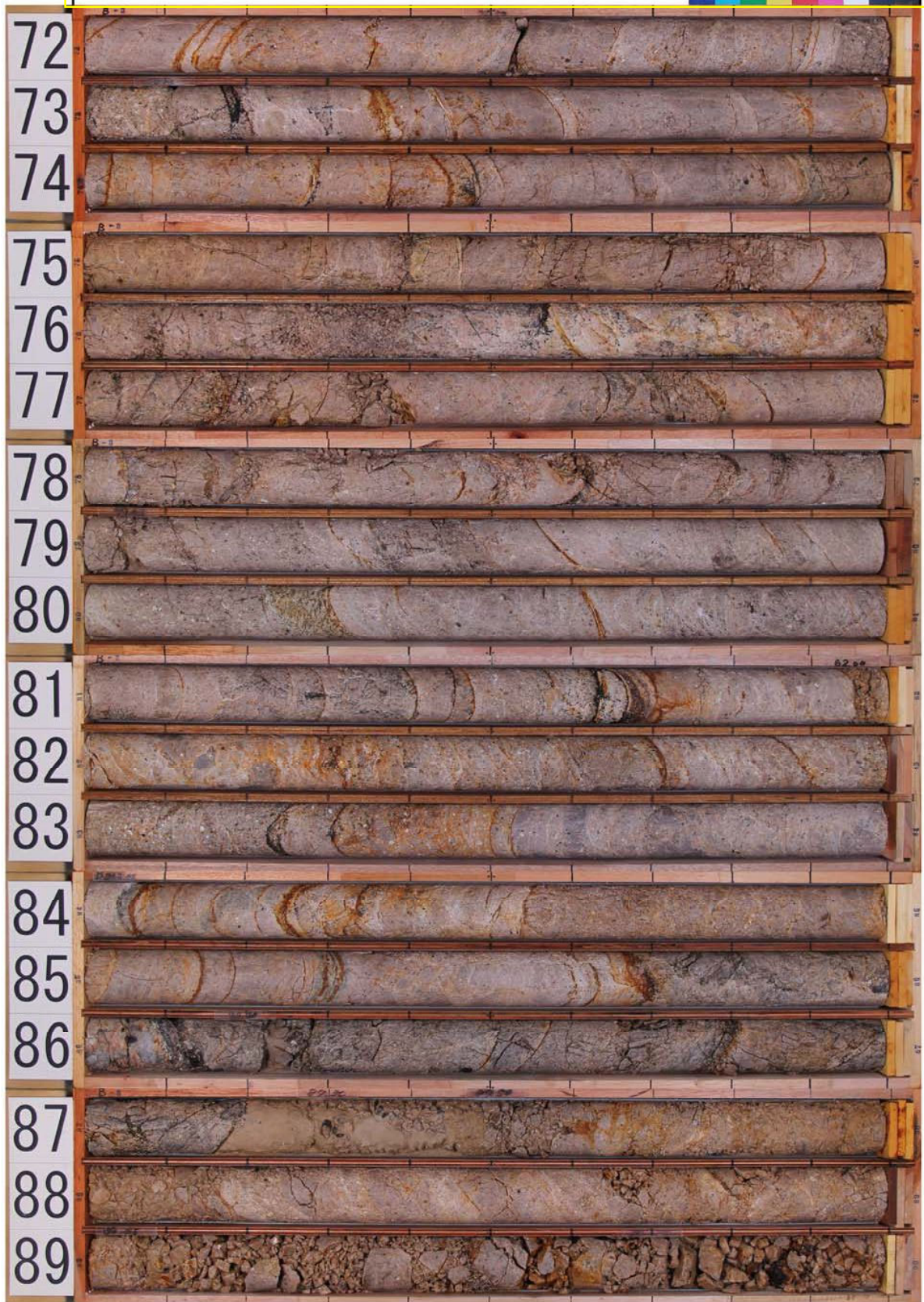
孔番 : H27-B-3

深度 54.00m ~ 72.00m



孔番 : H27-B-3

深度 72.00m ~ 90.00m



孔番 : H27-B-3

深度 90.00m ~ 108.00m



孔番 : H27-B-3

深度 108.00m ~ 126.00m



孔番 : H27-B-3

深度 126.00m ~ 144.00m



孔番 : H27-B-3

深度 144.00m ~ 162.00m



孔番 : H27-B-3

深度 162.00m ~ 180.00m



H27-B-4

余白

ボーリング柱状図

調査名	[Redacted]	ボーリングNo.	[Redacted]
事業・工事名	[Redacted]		1

ボーリング名	H27-B-4		調査位置	X:277.520, Y:897.180		北緯	35° 45' 12.76"		
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2015年5月23日～2015年7月9日		東経	136° 1' 4.38"	
調査業者名	[Redacted]	主任技師	[Redacted]	現場代理人	[Redacted]	コシ定者	[Redacted]	ボーリング責任者	[Redacted]
孔口標高	6.95 m	角	180°	方	北 0°	地盤勾配	鉛直 0°	使用機種	試験機
総掘削長	140.00 m	度	45.0°	向	西 270°				ハンマー落下用具
									ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	風割れ目	変質	記	コア採取率 (%)	岩級	孔内水位 (m) / 測定日	標準貫入 (N値～深度) 試験		室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
														(N値)	(深度)													
					黒					0.00～13.75m: 盛土 0.00～0.22m: 礫 径5～50mmの角礫からなる。岩種は砂質頁岩。 0.22～3.10m: 礫混じり砂 径2～20mm程度の花崗斑岩、アブライト、頁岩などの礫 (角礫～歪円礫) を含む。最大径40mm。基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。0.22～1.00m間は比較的隙分に含む (隙率5～10%)。全体に疎く、コアは指圧で容易に凹む。	0 50 100																	
1																												
2				盛土	明黄褐																							
3										3.10～6.30m: 砂質礫 礫分が多くなる。礫種は花崗岩類の他、黒色の砂質頁岩やコンクリート片が混じる。径10～100mmの角礫～歪角礫が多い。基質は細礫及び粗砂からなる。 3.30～3.58m: コンクリート片																		
4										3.70～4.00m: 基質は流失済み。全体にルーズ。																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平取巻)	室内試験 掘進 掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) 口径保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
															N値	0	10	20	30											40	50								
		6		明礬層							5.73~6.00m: 基質はやや流失済み。																												
		7		明礬灰							6.30~7.00m: 硬凝じり砂 粗砂が主体となる。花崗岩類の径5~20mmの角礫を5%以下で含み、極めて少量の径10mm以下の頁岩の角礫を含む。上位に比べて良く締っている。																												
		8		盛土							7.00~7.45m: アブライトの巨礫																												
		9		明礬層							7.45~13.75m: 硬凝じり砂~砂質礫 径2~70mmの花崗岩類、黒灰色の頁岩の角~亜円礫を5%以上含む。基質は粗粒砂~細礫からなり、やや締まっている~締っている。																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験		原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コパチュウノビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
															(N 値)	(図)															
											10.15m: 層分化した長さ100mmの木片を含む。																				
											11.03~11.52m: 含有礫は上下位に比べて小さくなる。																				
											12.05~12.20m: 花崗斑岩の大礫を含む。 12.24m: 木片混じる。																				
											12.51~12.63m: 層分化した木片混じる。																				
											13.65~13.75m: 木片混じる。13.75m付近に合板を含む。																				
											13.75~14.00m: 花崗斑岩堆積物との境界は45°で明瞭。所々、閃晶が少なくアフライト様を呈する部分を含む。 13.75~14.67m: 風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる。																				
											14.24m付近、65°の割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著である。																				
											14.53m付近、頁岩層を3倍含む。上部からの堆積物である。 14.67~15.49m: 風化は若干弱くなり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い。割れ目に沿った薄い白色雲母層が見られるものがある。																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 送 水 量 (L / 分)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)	
															(N 値)	(値)												
		16		花崗斑岩	黄橙	Dg	Vg	og	2	δ	15.06m, 15.09mにはそれぞれ43°, 55°の割れ目沿いに幅1~3mmのマンガンを挟む。	CL'	4 [9]															
	17	●15.91~16.36m: 破砕部 15.91~16.33m: 粘土混じり礫状~粘土質礫状部 (H) 上端72°でやや湾曲して連続。下端不明瞭。径2~20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ、マンガン汚染を伴う。上端には幅2~6mmの緑灰色粘土が不連続に分布する。オリーブ紫色を呈する。 16.33~16.36m: 粘土状~塊凝じり粘土状部 (Hc-1) 上端不明瞭。下端76°で波打って連続。径2~5mmの石英粒や岩片を10%以下で含む。灰白色を呈する。幅25cm 16.36~16.52m: 上位の破砕部と風化の影響で劣化が著しい。 16.52~17.03m: 40~60°の割れ目沿いの劣化が顕著で一部礫~砂状となる。																										
	18	17.03~17.86m: 20°程度の低角度の割れ目が優勢で、割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。																										
	19	17.86~18.52m: コア表面のザラつきは幾分少ない。20°程度の低角度の微細な割れ目が非常に多い。 18.52~24.55m: 30~60°の中角度の割れ目が主体で、割れ目に沿った褐色化が認められる。風化し軟質となった比較的大量の斜長石の副産物が目立つ。 19.57~19.76m: 礫状コアが主体となる。																										

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験 N 値 ~ 深度 () 図				原 位 直 試 験 (孔内水圧計)	室 内 試 験	掘 進 月 日	孔 徑 (mm) 掘 進 速 度 (cm/時)	コ ア チ ュー プ ノ ビ ット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)			
														N	値	()													
-10.41	24.55			花崗斑岩	淡橙					20.02m付近：傾斜50°で幅10~20mmの極めて小規模な変質部。途中でせん断する。 20.07m：傾斜30°で幅10~40mmの小規模な変質部。 周辺岩盤にも同様な細粒部が認められており、その分布は不規則で連続性が認められない。また、原岩細粒の残留の程度は周囲の岩盤と同様である。 20.23~20.37m：割れ目沿いに一部細礫状となる。 20.55~20.65m, 20.87~20.94m：礫状となる。 21.16~21.50m：微細な割れ目に沿ってマンガン汚染が明瞭である。 21.50~22.47m：割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変わる。 22.47~22.55m：コアチューブ引き上げ時の接合により礫状となる。 23.38~24.55m：コアは軟質となり、表面はザラつく。 24.13~24.55m：落下したコアを再採取したものである。 24.55~25.48m：コア欠如	CL																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水圧観測)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																									
															N 値	深度																																			
		11.07	25.48	コア欠如																																															
26			花崗斑岩	淡橙				δ			25.48~27.22m: 全体に変質し、長石の白濁化が目立つ。																																								
27											25.96~26.19m: コアは軟質で表面のザラつきが大きい。																																								
											26.40~26.47m: 割れ目沿いの劣化が明瞭で、コアも周辺より軟質である。																																								
											26.96~27.22m: 岩質が軟質で脆弱である。																																								
											27.22m: 40° の割れ目は、変質も加わり上縁側は明黄褐色を呈し、幅20mで軟質である。割れ目の面は凹凸があり、面のみ合わせは良い。軟質部は連続せず、周辺岩壁との境界線の一部を除いて漸移的である。軟質部の下縁側の岩盤には原岩組織が認められ、軟質部と系統的な割れ目も存在しない。																																								
28											27.95~28.00m: 割れ目が局所的に集中し、断面となる。割れ目沿いの細粒部の分布は局所的で連続せず、脆弱部の範囲には原岩組織が認められる。																																								
											28.10m: 傾斜60° で幅5~12mmのフライト細脈を挟む。境界面はゆるんでいる。																																								
											28.24m: 25° 程度で幅10mmが砂~塊状となる。上下端はシャープである。																																								
29											29.48~29.91m: 微細な割れ目が集中し、かつ、コアは軟質となる。29.59m~29.91mの微細な割れ目はマンガンに汚染される。																																								
											29.60~29.70m: 割れ目が卓越する。割れ目は全体にマンガン汚染により黒色化し、割れ目には細粒部が認められず、割れ目が卓越する区間中に分布する幅2mmの石英脈にそれが認められない。また、割れ目が卓越する区間及び周辺の岩盤には原岩組織が認められる。																																								
											29.65m: 傾斜45° で幅1~2mmの石英脈を挟む。																																								
											●29.74~29.76m: 破碎部 粘土混じり塊状部 (H)																																								
											上縁70° で幅2mmの白色粘土を一部に押し、下縁67° でマンガン汚染が顕著に見られ、いずれも微細的に連続。径2~20mmの岩片主体で岩片間にマンガン汚染が見られる。上縁側は幅10mで一部変質を伴う。にぶい橙色を呈する。幅23mm。																																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアシューブ / ビット	給 圧 (kN · MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)							
															(N 値 ~ 深度) 図	(値)																		
		31					Yg				30.10~30.69m : 25° 前後の割れ目が見られる。																							
		32					Yg Wg Gg Yg Gg Yg			2	30.62~30.73m : やや不規則な形状の高角度の割れ目が2条分布し、マンガンが幅3~5mmで挟む。 31.77~31.93m : 25° 前後の緻密な割れ目が、ほぼ平行に密集する。 31.07~31.91m : 上端45° で幅3mmの暗緑灰色の粘土~シルトを伴う。下端40° 。上下端の間はやや緑色味を帯び軟質である。含まれる細粒部は不連続で、軟質な区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 32.05~32.72m : 割れ目沿いの酸化汚染が目立つ。 32.36~32.38m : 20° ~30° 程度の割れ目が平行して密集する。上下端の割れ目はマンガン汚染により黒色化しているが、割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 32.60~32.73m : 30° 程度の割れ目がほぼ平行して密集する。緑泥石の薄い脈が3条分布する。 33.00~33.69m : 30~50° の割れ目が卓越し、割れ目によって明瞭な変化が見られるものが多い。 33.00m、33.46mの割れ目には幅2~5mm程度で緑色化が見られる。 33.30m : 割れ目には幅1~3mmの灰白色粘土化が見られる。																							
		33					Wg																											
		34					Yg Dg Gg Wg																											
											34.11~34.22m : 不規則な微細な割れ目が多い。 34.22m : 傾斜65° で幅0mmの石英脈を挟む。 34.30~34.42m : コアシューブ引き上げ時の擾乱により層状割れ目が集中し、硬~岩片状コアとなる。 34.55m付近 : 傾斜38° で局部的に連続しない細粒部を伴う。細粒部は途中でせん滅し、周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 34.70m、34.79m : 傾斜50° で幅1mm以下の石英脈を挟む。後者の割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土を伴う。																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N 値 ~ 深度) 試験		原位置試験 (孔内水深 取巻)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)							
															(N 値)	(図)																		
															0																			
		36									35.32m : 傾斜40° で幅2~3mmの石英脈を挟む。周辺は幅1cm程度で赤味を帯びる。 35.60~35.78m : 35° 程度のほぼ平行した割れ目が密集し脆弱となる。割れ目沿いに白~灰黄色の粘土層が見られる所が多い。 35.70m付近は球状であるが、挟在する細粒部は局所的に分布し、連続性に乏しく、35.70~35.72m間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 35.78~39.40m : 割れ目沿いの酸化及びマンガン汚染が目立つ。 36.14~36.35m : 割れ目がやや卓越する。 36.25~37.20m : 傾斜70° 以上の高角度割れ目が見られる。																							
		37									36.86~39.40m : 傾斜50~70° の割れ目が主体となる。 36.98~37.10m : 75° の割れ目に沿って幅12mmで白色化し、細粒~砂状となる。 37.36m : 25° の割れ目に沿って幅4mmの暗褐色のシルト~砂が流入する。 37.36~37.98m : 割れ目沿いの酸化汚染は明瞭であるが、挟在物は見られない。																							
		38									38.08~38.96m : 挟在物を伴う割れ目は、38.53mの70° の1条のみである。																							
		39									38.96m以深、割れ目に沿って劣化するものが多い。 39.21m、39.60~39.65m : 割れ目沿いに劣化し、幅10mm以下で砂~細礫状となる。																							

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色	硬 軟	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 (%) 最大コア長 R Q D [m]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験					原 位 直 接 試験 (孔内水圧計)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔壁保護	コ ア チ ュー ブ / ビット	給 圧 (kN·MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)											
														(N 値 ~ 深 度) 図																										
41			花崗斑岩 にぶい橙	浅黄		Vg				40.64~40.93m : 不規則な割れ目が卓越し、割れ目沿いの変質による劣化が明瞭である。灰白~黄褐色の砂~細礫状となる所が多い。																														
								IVg				40.93~41.00m : 割れ目に沿って劣化し、細礫状となる。																												
								Dg				41.00~41.20m : 傾角度と高角度の割れ目が交差し、塊状となる。割れ目沿いに劣化が見られるものが多い。																												
								Dg	IVg			41.37~41.47m : ほぼ平行な40°前後の割れ目が密集し、割れ目沿いの劣化が明瞭で脆弱である。																												
								Dg	IVg			41.80~41.91m : 割れ目沿いの劣化が顕著で非常に脆弱である。変質し灰白色粘土が細目状に分布する。																												
42								Dg				42.12m : 傾斜40°で幅2mmの黄褐色粘土を挟む。																												
								Dg				42.12~42.25m : 割れ目沿いの劣化が顕著で、一部粒質な砂状となる。粘土や鐵屑は見られない。																												
								Dg		cg		42.35m : 25°の割れ目に幅2~3mmのマンガンを挟む。																												
								Dg	Vg		2	42.38~42.46m : 局所的に粒質な砂に岩片が混じる。褐色汚染も明瞭である。																												
								Dg				43.05m : 傾斜32°で幅10mmで劣化する。上端は幅1~2mmの石英脈。下端は幅2mmの灰白色粘土を伴う。灰白色粘土は分岐し、直線性に乏しい。																												
								Dg				43.05~43.15m : コアチューブ引き上げ時の振動により岩片状を呈する。当該区間及び周辺岩体には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																												
								Dg				43.54~43.65m : 変質及び風化で脆弱となる。43.63mには幅15mm程度の白色の変質層を伴い、粘土化はしていないが軟弱である。																												
								Dg				43.80~44.21m : 20~30°の割れ目が卓越し、コアも軟質で表面はザラつく。																												
44						Dg	IVg			44.46m : 42°の割れ目に沿って褐色汚染が顕著である。周辺には絹雲母と黄鉄鉱が散在し、幅5mm程度で褐色化する。																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																															
															(N 値)	(貫入)																																																																																										
46				花崗斑岩	にみい層					2	45.10m : 割れ目に沿って上端側は一部、幅20mmで脆弱となる。新露部が散在し、緑色化が著しい。割れ目に細粒部は認められず、割れ目の上位側の脆弱部は局所的に分布し、連続性に乏しい。周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 45.42~45.62m : 微細な割れ目が密集し、コアも軟質で表面がざらつく所が多い。 45.73~45.80m : 割れ目沿いに劣化し、黄褐色の塵~砂状となる。				0	10																																																																																										
47											46.10~46.25m : 60~70° の割れ目が密集する。挟在物を伴う割れ目もあるが、汚染はほとんど見られない。 47.11~47.32m : 微細な割れ目が網目状となる。割れ目沿いの劣化も見られ軟質、脆弱となる。 47.36~47.53m : 高角度と低角度の割れ目が交差し格子状となる。割れ目に汚染は見られないが砂状の挟在物を伴う。 47.76~48.39m : 微細な割れ目が卓越し、脆弱となる。 47.76~47.80m : 割れ目沿いのマンガン汚染が明瞭である。																									0	10																																																																					
48											●48.39~48.43m : 境界部 砂凝しり粘土状~礫質砂状部 (Hc-2) 上傾52°、下傾45°。上端側は幅5~10mmで濃い褐色を呈する砂凝しり粘土状部。下端側は幅12~20mmで灰白色を呈する礫質砂状部となる。両者の境界は波打っている。全体としてやや赤味を帯びる。幅30mm。 48.74m : 傾斜40° の割れ目に幅1mm以下の灰白~緑灰色粘土を挟む。下端側傾斜2cm程度は長石の白濁化が目立つ。																																																	0	10																																													
49											48.87m : 傾斜42° の割れ目とそれと直交する40~50° の割れ目に沿ってマンガン汚染が見られる。 49.02~49.18m : 不規則な割れ目が発達する。 49.19m : 63° で、上傾側幅20mmが劣化し脆弱となる。幅2mm以下の褐色粘土及び上傾側の脆弱部は途中でせん断し、連続性に乏しい。周辺は幅5mm程度で緑色化する。周辺岩盤には原岩組織が認められる。 49.43m : 47° で幅2~4mmの白~黄褐色の塵物層を挟む。風化しやや軟質である。																																																																										0	10																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																					
		51	花崗斑岩	花崗斑岩							50.09m : 15~70° の湾曲した開口割れ目に幅5mmのマングンを挟む。																										
		52									50.39~50.60m : 劣化し全体が軟質で、表面は砂状となる所がある。																	50.58~50.92m : 白色粘土細脈が不規則に分布する。	51.20~51.43m : 微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目沿いに幅1mm以下でにぶい褐色粘土を挟む所が多い。	51.66~51.97m : 30~50° の微細な割れ目が非常に卓越し軟質となる。	52.11~53.35m : 傾斜20° 以下の微細な割れ目が1~3cm程度の間隔で発達する。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。	52.38~52.44m : 微細な割れ目が密集し、局部的に礫状となる。上端側の割れ目に幅4mmのマングンを挟む。	52.90m : 45° で幅4mmの変質した黄褐色粘土を挟む。褐色汚染が明瞭である。	53.54~53.59m : 割れ目沿いの劣化が明瞭で、一部は細礫~砂状となる。	53.84m : 高角度の割れ目に沿って劣化し、一部細礫状となる。	54.66~54.73m : 50~60° のほぼ平行な割れ目に沿って劣化し、一部礫状となる。褐色汚染も顕著に見られる。	54.96~55.55m : 傾斜20° 以下の割れ目が非常に卓越する。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															(N 値)	(図)																		
		56		花崗斑岩 にみじく							<p>55.56m : 50° の割れ目間に幅2mmで黄褐色の砂を挟む。褐色汚染も明瞭である。</p> <p>56.45~56.61m : 高角度と低角度の割れ目が交差し亀甲状となる。</p> <p>56.74m : 71° で幅3mmの褐色粘土を挟む。 56.88~56.98m : 約50° のほぼ平行した微細な割れ目が卓越し、一部隙状となる。</p> <p>57.24~58.50m : 多くの割れ目に褐色汚染が見られる。</p> <p>57.54~57.74m : (傾斜50~66°) の割れ目沿いに劣化し、軟質である。幅1~3mmの黄褐色粘土を挟む。</p> <p>58.06~58.71m : 岩質は硬い。</p> <p>59.02~59.34m : 潜在割れ目を除き、割れ目のない柱状コアで、岩質も硬い。</p>																							

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D O L [%]	岩級	区分	孔内水位 / 測定月日 (N) 値	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水圧 基準)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)								
																0	50																			
61			+	花崗斑岩		黄褐色	Dg	cg	2	Y	60.07~60.45m : 微細な割れ目が卓越し、変質により軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹む所が多く、ザラつく。灰白~にぶい褐色の粘土が網目状に分布する。	0	CL'																							
																																3	60.45~60.82m : 30~60° の平行に近い割れ目が卓越し、割れ目沿いに褐色汚染が顕微である。	4	0	0.00
																																2	60.82~61.72m : 微細な割れ目が卓越し、にぶい褐色の粘土が網目状に分布する。コアも軟質で、特に61.40~61.52m間は劣化が顕著で砂礫状を呈する。	3	0	0.00
																																3	61.72~62.36m : コアは若干疎くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。割れ目沿いの褐色汚染が見られる。	3	0	0.00
																																2	62.36~63.25m : コアは軟質で表面がザラつく。低角度がやや優勢な不規則で微細な割れ目が卓越する。割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。	3	0	0.00
																																3	62.40~62.50m : 長石の白濁化が目立つ。	3	0	0.00
																																3	62.75m : 傾斜65° で幅10mmがやや緑色味を帯び、褐色汚染が顕微である。割れ目に幅1mm以下の灰黄色粘土を断続的に挟み、連続性に乏しい。同系統の割れ目は白色脈を横断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	3	0	0.00
																																2	63.00~63.26m : 劣化し全体に軟質である。割れ目に砂やシルトを挟む。	6	0	0.00
																																3	63.26~63.60m : 上下位に比べて劣化の程度は弱い。割れ目に緑灰色や黄褐色の粘土を挟む。	6	0	0.00
																																3	63.62~63.90m : 全体に軟質で、亀甲状の割れ目に灰白色シルトを挟む。	6	0	0.00
64			+	黄褐色	黄褐色	Dg	cg	4	Y	63.90~64.30m : 強く変質し軟質で、割れ目は不鮮となり、やや緑色を帯びる。原岩組織は認められる。	0	D'																								
										2																				64.30~64.65m : 上下位に比べて劣化の程度は弱い。不規則な割れ目が発達している。酸化汚染は見られない。	4	0	0.00			
64			+	黄褐色	黄褐色	Dg	cg	3	Y	●64.65~64.91m : 破砕部粘土凝り硬状部 (H1) 上傾65° で直線的に連続、下傾65° で不明瞭。径2~30mmの岩片主体で岩片間に幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。上端には暗灰色粘土を幅3mmで伴う。また、64.74m及び64.80mに傾斜60° で幅1~3mmの灰~灰白色シルト (Hc-2) を挟む。全体はにぶい黄褐色を呈する。	0	CL'																								
										2																								4	0	0.00

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入試験					室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コパチュール/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																													
															(N 値)	(N 値)	(N 値)	(N 値)	(N 値)																																																																																							
				花崗斑岩	褐灰	Bg	Vg	og			2																																																																																															
						Cg																																																																																																				
				花崗岩	花崗岩	灰黄褐	Dg	Vg	og			2																																																																																														
																																						凝灰岩	Dg	Vg	og				3																																																													
																																																																								凝灰岩	Dg	Vg	og				4																											
					凝灰岩	Dg	Vg	og				2																																																																																														
																																												凝灰岩	Dg	Vg	og				2																																																							
																																																																																		凝灰岩	Dg	Vg	og				2																	
																																												凝灰岩	Dg	Vg	og				2																																																							
																																																																																		凝灰岩	Dg	Vg	og				2																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記	コ	ア	採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コ	ア	給	回	送	送	排							
																					(N値 ~ 深度) 図																	(L)	(N)	(M)	(P)	(Q)	(R)	(S)
		71	花崗斑岩 淡色	花崗斑岩	淡色	Dg Vg Og Vg Vg Cg Wg Dg Og Vg Cg Bg Wg Bg Cg Vg Og Dg Wg Cg Vg Bg	γ 2			70.06m付近。傾斜60°で幅20~30mmが局所的に脆弱となる。割れ目沿いの細粒部は連続性に乏しく、細粒部の下端側にある脆弱部も不連続で、脆弱部及び周辺部には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 70.06m：傾斜55°で幅3~10mmの灰白色粘土を挟む。 70.91~72.00m：アブライト脈を挟む。上端50°、下端はコア端部で不明である。 71.13~71.36m：褐色化する。 71.22m・60°、71.25m・54°の割れ目が幅20~30mmで脆弱となる。割れ目に幅1mm以下の黄灰色粘土を挟むが、不連続である。2条の割れ目の間は原岩組織が認められる。 71.25~71.33m：マンガン汚染が顕著である。 71.25~72.73m：やや軟質でコア表面はザラつく。 72.24m：傾斜53°で幅1~3mmのマンガンを挟む。 72.33m：32°の割れ目に幅8~15mmのマンガンに汚染された暗褐色の硬質な砂を挟む。細粒部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 72.41m：傾斜65°で幅1~2mmの灰白色粘土を不連続に挟む。 72.49m：傾斜38°の傾曲した割れ目に幅1~4mmのマンガンを挟む。径1~2mmの花崗岩類の岩片を多く含む。 73.56m：65°で幅4~10mmのマンガン汚染された暗褐色のシルト質砂を挟む。 74.16~74.34m：30~50°の割れ目が密集し、脆弱である。 74.16~74.23m：微細な割れ目が発達し、マンガンが濃集する。上下端の境界は45°程度で凹凸が著しい。 74.32m：傾斜48°で幅3~5mmの砂層より灰黄色粘土を挟む。 74.63m：傾斜60°で幅3~5mmの黄褐色の砂混じり粘土を挟む。周囲は細片化する。																																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日 (N) 値	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水圧)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)								
															0	50																			
		46.97 ~ 76.25	花崗斑岩			Bg	bg				75.05~75.29m: 20~40° の低角度の割れ目がほぼ平行して卓越する。																								
		48.06 ~ 77.80	アプライト 淡橙			Dg	cg				75.97~76.25m: 割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。 76.17m: 傾斜51° で幅1~2mmの明褐色粘土を挟む。上端部は一部灰白色粘土が網目状に分布し、素質が硬む。 76.25~77.80m: アプライト 径1~2mmの石英、長石、黒雲母を2~3%含む。上下端の境界はゆるして不明瞭。 76.61m: 傾斜54° で幅1~2mmの明褐色粘土を挟む。 76.80m: 傾斜45° で幅1~6mmの砂粒じり灰白色粘土を挟む。 76.90m: 傾斜50° で幅1~2mmのマンガンを挟む。 77.19m: 傾斜50° で幅5mm程度の黄褐色粘土を挟む。 77.48~77.67m: 20° 程度の低角度割れ目沿いに劣化が見られ、コアは軟弱でずらつく。77.55~77.60m間はマンガンが濃集する。																								
			花崗斑岩			Bg	cg				77.96~78.08m: 割れ目沿いに劣化し、黄褐色の砂状の挟在物を伴う。 78.21~78.51m: 多方向の割れ目が見られ、やや脆弱である。 78.29m: 傾斜24° で幅10mm程度が砂~細片状を呈する。 78.47~78.71m: 割れ目沿いにマンガン汚染が目立つ。																								
						Bg	cg				79.45~79.57m: 短い筋状のマンガン汚染が多数見られる。高角度のものが多く、この筋上に割れ目として認識できるものは少ない。																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水圧 基準)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																			
															N 値																																																		
		81	+	花崗斑岩	淡橙	Bg	IVg	Bg	γ	2	80.13~80.29m: 35~55° の同方向の割れ目が密集する。マンガン汚染が目立ち、脱色も見られる。 80.29~80.51m: 割れ目はやや少なくなるが、割れ目沿いの劣化は明確である。 80.51~81.02m: 割れ目に挟在物は見られず、岩質は硬い。 81.30~81.96m: 割れ目の挟在物も薄く、岩質も硬質である。90° の高角度の微細な割れ目が見られるが、完全に密着する。	[24]	GM'																																																				
		82				Dg	IVg	Bg																															[24]																										
		83				Cg	IVg	Bg																																[34]																									
		84				Bg	IVg	Bg																																																									
						Dg	IVg	Bg																																																									
						Cg	IVg	Bg																																																									
						Bg	IVg	Bg																																																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図				原位直試験 (孔内水圧 基準)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																
														N	値	0	50																											
		86								85.73~85.97m : 70~90° の高角度の2本の割れ目に挟まれた範囲で割れ目が発達し、岩片状となる。																																		
		87								86.73~86.83m : 上傾37°、下傾40° の割れ目に挟まれた区間で局所的に明瞭灰色の砂~礫状となる。 86.83~88.03m : 傾斜60° 前後の割れ目面や割れ目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、挟在物はほとんど見られず、岩質も硬い。 87.11m : 傾斜60° で概5mm程度が緑色化する。																																		
		88								88.59m : 傾斜43° で概1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は概3mm程度でわずかに緑色化する。																																		
		89								88.96m : 45° の割れ目下端部が劣化し局所的に非常に脆弱である。上傾傾は概20mmで緑化汚染及びマンガンの汚染が明瞭に見られる。 89.27~89.44m : 傾斜45° 前後の微細な割れ目が0.5~3cm程度の間隔で発達し、コアもやや軟質である。																																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N 値 ~ 深度) 試験					室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)			
																(N 値)	(値)	(値)	(値)	(値)												
91			花崗斑岩 浅黄橙	Bg	IVg	Bg	IVg	bg			90.64m : 傾斜54°で幅2mm程度のマンガンを挟む。周辺は幅1cm程度緑色化する。 90.75~91.96m : 微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は、50°以下の亜平行化した割れ目ではまっているものが多い。50°以下の割れ目に細結部は伴わない。もしくは途中でせん断し、連続性が乏しく、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	0	17	GM'																		
				Cg	OR	Cg	OR	og				91.45m : 48°で幅6mmが緑色を帯びる。割れ目に挟み込む細結部はせん断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	6	6	CL'																	
				Dg	Yg	Dg	Yg	yg				92.55~92.71m : 多方向の割れ目が交差し亀甲状となる。岩質もやや軟弱である。	6	6	CL'																	
				Cg		Cg						92.94~92.96m : 傾斜27~40°の2本の割れ目に挟まれた区間が黄色味を帯びてやや軟弱である。																				
				Eg	IVg	Eg	IVg	dg				●93.13~93.22m : 破砕部 93.13~93.14m : 粘土状部 (Hc-1) 傾斜30°。淡黄色を呈する。幅12mm。 93.14~93.22m : 粘土湿りり硬状部 (Hj)																				
				Cg	Yg	Cg	Yg	og				上述30°。下延50°でいずれも扇形的に連続。径2~10mmの岩片主体で岩片間にわずかに灰白色粘土細脈を挟む。にぶい黄褐色を呈する。幅6.7mm。	14	14	GM'																	
				Bg	IVg	Bg	IVg	bg																								
				Cg	IVg	Cg	IVg	bg				94.38~94.40m : 2本の割れ目沿いに劣化し脆弱となる。挟み込む灰黄色粘土は不連続で、この区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目も存在しない。	10	10	CL'																	
					Yg		Yg	og																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日 N 値 () 値	標準貫入 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水深)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コァチューブ / ビット	給 圧 (kN · MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)												
															0	10	20	30	40																							
															0 10 20 30 40 50																											
			花崗斑岩 浅黄橙								95.08~95.37m : 35~60° の平行した割れ目に沿って弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色を帯びる。95.37mの割れ目に幅1mmの灰黄色粘土を挟む。	CL'																														
96		Bg									cg																													vg		95.65~95.75m : 傾斜60°で幅3cm程度が劣化し砂礫状を呈する。絹雲母が存在する。
97		Dg									bg																														2	96.20~96.32m : 30°で幅30~40mmが脆弱で軟質となる。緑色を帯びる。下端割れ1cm程度は砂礫状を呈するが、含まれる稜や岩片に空孔配列は見られない。脆弱部の境界は不明瞭で凹凸があり、脆弱部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
																																										96.96m : 傾斜52°で幅1.5cm程度が緑色化する。
																																										97.10~97.59m, 97.81~98.03m : 割れ目が著しく発達し、砂礫状を呈する。コアが乱れている。
																																										98.03~98.27m : 短柱状~岩片状コアからなる。傾斜40~60°の割れ目に沿った劣化が顕著である。
																																										98.27~98.53m : 柱状~短柱状コアからなるが、密着した微細な割れ目が非常に多く、軟質でコア表面はガラつく。
																																										98.64m : 傾斜30°で幅5mm以下の灰白色粘土を挟む。 98.70~98.74m : マンガンが濃染する。
98																																										
99																																										99.05~99.10m : 局所的に劣化が進み礫状となる。酸化汚染も顕著である。99.10m付近に絹雲母が多く見られる。傾斜50°で幅1.5cm程度が緑色化する。
							2																																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		室内試験 (孔内水圧計)	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
															(N値)	(N値) 図																
		101	花崗斑岩				IVg				<p>100.28m, 100.30m : 50~55° で幅2~4mmの赤褐色の砂状挟在物を不連続に挟む。褐色汚染が明瞭である。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。</p> <p>100.45m : 25° の低角度割れ目の周辺に鮮やかな藍色の脈状影が見られる。</p> <p>101.31~101.43m : 5~20° の低角度を主体とした割れ目が密集する。割れ目沿いの劣化も明瞭で、一部局部的に塊状となる。</p> <p>101.34m : 傾斜51° で幅5~10mmの褐色砂状部を挟む。径2~5mmの岩片を含む。</p> <p>101.43~102.23m : 柱状~長柱状コアが主体で、岩質も堅硬である。</p> <p>102.23~102.37m : 傾斜50° の割れ目がやや卓越し、102.23m, 102.25mは割れ目沿いの劣化が明瞭である。幅1~5mmの砂状じり黄褐色シルトを挟む。2本の割れ目の間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。</p> <p>103.40~103.55m : 傾斜40~50° の割れ目の間に高角度の微細な割れ目が分布する。割れ目に沿ったマンガン汚染が見られる。</p> <p>104.03~104.47m : 50~60° の割れ目が卓越し、これとほぼ直交する割れ目は横断するものが見られる。割れ目沿いの細粒部は局部的に分布する。この区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められる。</p> <p>104.50~104.90m : 斑状の褐色汚染が明瞭である。</p>																					
		102					Bg	IIIg								CM'																
		103					Bg	IIIg								CH'																
		104					Bg	IIIg								CM'																
							Bg	IIIg								CH'																
							Bg	IIIg								CH'																
							Bg	IIIg								CH'																
							Bg	IIIg								CH'																
							Bg	IIIg								CH'																
							Bg	IIIg								CH'																
							Bg	IIIg								CH'																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日 (N) 値	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					室内試験 (孔内水圧含む)	掘進 掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
															0	10	20	30	40									50	
				に欠け黄褐色	黄褐色	Bg	IVg	IIg	bg	2	105.08~105.80m: 柱状コアが主体で岩質も堅硬である。		CH'																
		106.31~106.39m: 局部的に傾斜10~15°の割れ目が密集し、割れ目沿いの劣化もわずかに見られる。																											
		106.58~106.92m: 斑状の褐色汚染が見られる。																											
		106.87m: 30°で幅3mmの汚染されて褐色となった砂層を挟む。																											
		107.47~108.34m: 堅硬な柱状コアが主体で、割れ目やコア表面にマンガンと褐色汚染が見られるが、挟在物はほとんど見られない。																											
		108.44~108.71m: 破砕部																											
		108.44~108.63m: 粘土凝り硬状部 (H)																											
		108.63~108.67m: 粘土質硬状部 (H)																											
		108.67~108.71m: 硬質粘土状部 (H)																											
		108.71~108.79m: 傾斜40~60°の割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られ、やや脆弱である。																											
		108.79~109.03m: 直交する2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。																											
		108.90~109.03m: 砂層状を呈し、一部高角度割れ目に流入する。																											
		109.41m: 傾斜48°で幅0.5mmの灰白色粘土とマンガンを挟む。下部傾斜15cm程度は連続し、にがれに着色して原岩組織も不明瞭となる。																											
		109.76~109.79m: 傾斜50°の割れ目の間が幅3cm程度で変質し、灰白色を呈する。下部傾斜の硬岩部との境界は明瞭である。																											
		109.79~110.79m: 微細な割れ目が密集する所もあるが、コアは硬く、割れ目の多くは閉塞する。																											
		109.79~110.39m: 傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	(標準貫入)試験		原位置試験 (孔内水基岩)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																														
														(N値) 値	(N値~深度) 図																																									
111			+ +	花崗斑岩	にんじょう黄橙						111.22~111.59m : 傾斜80~90°程度の割れ目が複数分布する。	0 50 100 10 [10]	CL'	0 10 20 30 40 50																																										
112																																					111.57m付近、局所的に割れ目面が鮮やかな青緑色に変色する。	16 [16]																		
113																																					112.84~113.03m : 傾斜60~80°の高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが、挟在物は無く、弱い褐色汚染が認められる。	11 [11]																		
114																																					113.41~113.54m : 複雑な割れ目がやや発達する。113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ、幅5~30mmが軟質、脆弱となる。	11 [11]																		
																																					114.57~114.76m : 割れ目が発達する。114.60~114.66m間は40°程度の平行した割れ目が密集する。114.73m付近は硬~岩片状となる。	12 [12]																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水基岩)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																										
															(N 値)	(値)																																					
				花崗斑岩			IVg	bg			115.40~115.54m: 115.46m付近の2条の潜在割れ目を中心に褐色汚染が明瞭である。黄鉄鉱を中心に褐色化が顕著に見られる。	CM'			0	10																																					
116																														IVg	cg		116.30m: 57°で幅5mmの褐色に汚染された砂状挟在物が見られる。	CM'																			
																														IIIg			116.52~119.32m: 柱状~長柱状の堅硬なコアが主体となる。																				
117																														IIg	Bg	γ 2		117.83m: 50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、緑泥石化により、やや緑色を帯びる。割れ目の周囲には結晶母が露出する。	CH'																		
118			IIIg	bg				CH'																																													
119			IIg				119.65~119.83m: 割れ目がやや発達する。割れ目面にはマンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部は砂~シルト状の挟在物が見られる。																						CM'																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D cm L [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	標準貫入 試験		原位置試験 (孔内水基岩)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)			
															(N 値)	(値)														
							II g	og			120.05m, 120.07m: 傾斜40°で幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。		GM																	
							III g				120.31m付近: 35°の平行な割れ目が密集し、マンガンを挟む。																			
							II g				120.40m: 40°の比較的シレーブな割れ目に傾灰色の変質帯と幅2mmの褐色化が顕著に見られる。																			
							Bg				120.40~122.54m: 堅硬な柱~長柱状コアからなる。褐色汚染が見られる割れ目が多い。																			
							II g	bg			121.60m: 傾斜50°の割れ目沿いの一部が脆弱で細礫状となる。白色のシルト状の挟入物が見られる。		CH'																	
							II g																							
							Cg	og		2	122.46m: 傾斜50°の割れ目の周囲が変質により褐色を帯びる。結晶母が散在し、褐色汚染も顕著である。																			
							Bg	bg			122.54~123.84m: 露在化した割れ目の他、微細な割れ目が多い。																			
							Cg	og			123.00~123.26m: 高角度の割れ目に幅1~6mmのマンガンを挟む。割れ目が密集し脆弱である。																			
							V g	og			123.15m: 傾斜45°で幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅3mm程度で褐色化する。																			
							IV g				123.85m: 60°で幅3mmの褐色に汚染された砂を挟む。																			
							Bg	bg			124.00~125.20m: 柱状コアが主体となり、岩質も硬い。																			
							II g																							
							IV g																							
							II g																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水圧 含む)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
															N 値	0	10	20	30												40	50										
											125.37m付近、局部的に微細な割れ目が密集する。		CH'																													
											126.34~126.69m: 柱状コアであるが、褐色汚染が見られる。汚染はコア全体に及ぶ。		CM'																													
											127.00~127.83m: 不規則で微細な割れ目が発達する。 127.06~127.30m: 破片でコア表面はザラつく。破片により割れ目に沿って褐色を帯びる所がある。 127.19~127.22m: 傾斜62°で幅0~10mm程度で局部的に灰白色粘土、一部赤褐色粘土を挟む。		CL'																													
											128.26~128.76m: 微細な割れ目が多く、割れ目沿いに褐色汚染が見られる。		CM'																													
											128.90~129.15m: 一部の傾斜30~45°の割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は塊状となる。		CL'																													
											129.98~130.50m: 傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。		CM'																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)				
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)															
				花崗斑岩	にんじき黄橙		Cg	bg			130.02~130.42m: 80°の高角度の割れ目が見られ、割れ目沿いに劣化し、一部礫状となる。																				
											130.84m付近、交差する割れ目に挟まれた区間が局所的に劣化し、礫状となる。																				
131											131.54~131.61m: コアの半分が劣化し礫状となる。																				
											132.14~132.67m: 堅硬な柱状コアからなる。																				
											132.31m: 傾斜25°で幅1~2mmの石英脈を挟む。																				γ 2
											132.67m: 傾斜82°の割れ目が分布する。																				
											132.87m: 45°で幅3mmのマンガンを挟む。																				
133											133.24~133.29m: 傾斜40~50°の割れ目間が礫状となり、礫には褐色の細粒物が付着する。																				
											133.90m: 傾斜72°の割れ目沿いに褐色化が顕著に見られる。																				
											134.02~134.50m: 強い褐色汚染がコア全体に及ぶ。																				
134											134.50~134.74m: コアはやや青味を帯びる。風化の影響は少ない。																				
											134.78m付近、黄鉄鉱が見られ、その周辺には褐色汚染が狭い範囲に見られる。																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
															(N値~深度) 図	(N値)											
		136																									
		137																									
		138																									
		139																									
		92.04	140.00																								

孔番 : H27-B-4

深度 0.00m ~18.00m



孔番 : H27-B-4

深度 18.00m ~ 36.00m



孔番 : H27-B-4

深度 36.00m ~ 54.00m

